池田市埋蔵文化財発掘調査概報

２００４年度

２００５年3月

池田市教育委員会

序　　文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展した。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かっての面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えていくことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

池田市教育委員会
教育長　村田 陽

例　　言

1．本書は、池田市教育委員会が平成16年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50％）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。

2．調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課文化財担当が実施し、中西正和が現地を担当した。

3．本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻美穂・辻武司の協力を得た。

4．本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所　色票監修）による。

5．調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表します。

目　　次

Ⅰ　歴史的環境 …… 1

Ⅱ　池田城跡第50次調査 …… 5

Ⅲ　禅城寺遺跡発掘調査 …… 7
　　禅城寺遺跡第５次調査 …… 8
　　禅城寺遺跡第６次試掘調査 …… 9

Ⅳ　宮の前遺跡発掘調査 ……11
　　宮の前遺跡第35次調査 ……12
　　宮の前遺跡第40次調査 ……13
　　宮の前遺跡第41次調査 ……13

Ⅴ　神田北遺跡発掘調査第13次試掘調査 ……15

図　　版

図版１　　１）池田城跡第50次調査　トレンチ全景（南から）
　　２）禅城寺遺跡第５次調査　トレンチ全景（西から）

図版２　　１）禅城寺遺跡第６次試掘調査　トレンチ全景（南から）
　　２）宮の前遺跡第35次調査　トレンチ全景（北から）

図版３　　１）宮の前遺跡第40次調査　第１トレンチ全景（南から）
　　２）宮の前遺跡第41次調査　トレンチ全景（南から）

図版４　　１）神田北遺跡第13次試掘調査　トレンチ全景（北東から）
　　２）神田北遺跡第13次試掘調査　出土遺物

図版５　　１）禅城寺遺跡第６次調査　出土遺物
　　２）禅城寺遺跡第５次調査　出土遺物
　　３）宮の前遺跡第35次調査　出土遺物

挿　図　目　次

Ⅰ　歴史的環境
第１図　畑出土有茎尖頭器 …… 1
第２図　宮の前遺跡石棒 …… 1
第３図　遺跡分布図 …… 2
第４図　豊島南遺跡方形周溝墓 …… 3
第５図　池田城跡竪穴住居跡 …… 3
第６図　豊島南遺跡掘立柱建物跡 …… 4
第７図　池田城跡主郭部 …… 4
Ⅱ　池田城跡第50次調査
第８図　調査地位置図 …… 5
第９図　トレンチ位置図 …… 6
第10図　トレンチ北壁断面図 …… 6
Ⅲ　禅城寺遺跡発掘調査
第11図　禅城寺遺跡第２次調査 …… 7
第12図　調査地位置図 …… 7
禅城寺遺跡第５次調査
第13図　トレンチ位置図 …… 8
第14図　トレンチ平・断面図 …… 8
第15図　出土遺物実測図 …… 8
禅城寺遺跡第６次試掘調査
第16図　トレンチ位置図 …… 9
第17図　トレンチ平・断面図 …… 9
第18図　出土遺物実測図 …… 9
Ⅳ　宮の前遺跡発掘調査
第19図　宮の前遺跡第26次調査 …… 11
第20図　調査地位置図 …… 11
宮の前遺跡第35次調査
第21図　トレンチ位置図 …… 12
第22図　トレンチ平・断面図 …… 12
第23図　出土遺物実測図 …… 13
宮の前遺跡第40次調査
第24図　トレンチ位置図 …… 13
第25図　第１トレンチ西壁断面図 …… 13
宮の前遺跡第41次調査
第26図　トレンチ位置図 …… 13
第27図　トレンチ平・断面図 …… 14
Ⅴ　神田北遺跡第13次試掘調査
第28図　神田北遺跡第11次調査 …… 15
第29図　調査地位置図 …… 15
第30図　トレンチ位置図 …… 16
第31図　トレンチ平・断面図 …… 16
第32図　出土遺物実測図 …… 16

Ⅰ　歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1㎞、南北9.2㎞の南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにある。古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央を五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50mの緩やかな五月丘丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかになっている。

旧石器時代

現在のところ旧石器時代についての遺跡は少ない。旧石器が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡、神田北遺跡が挙げられるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山丘陵の西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大阪府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器・平成元・７年度の豊中市教育委員会による蛍池北遺跡発掘調査でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片１点が採取されている。新たな遺跡として、平成９年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴う神田北遺跡の調査でサヌカイト剥片１点出土している。

第１図　畑出土有茎尖頭器

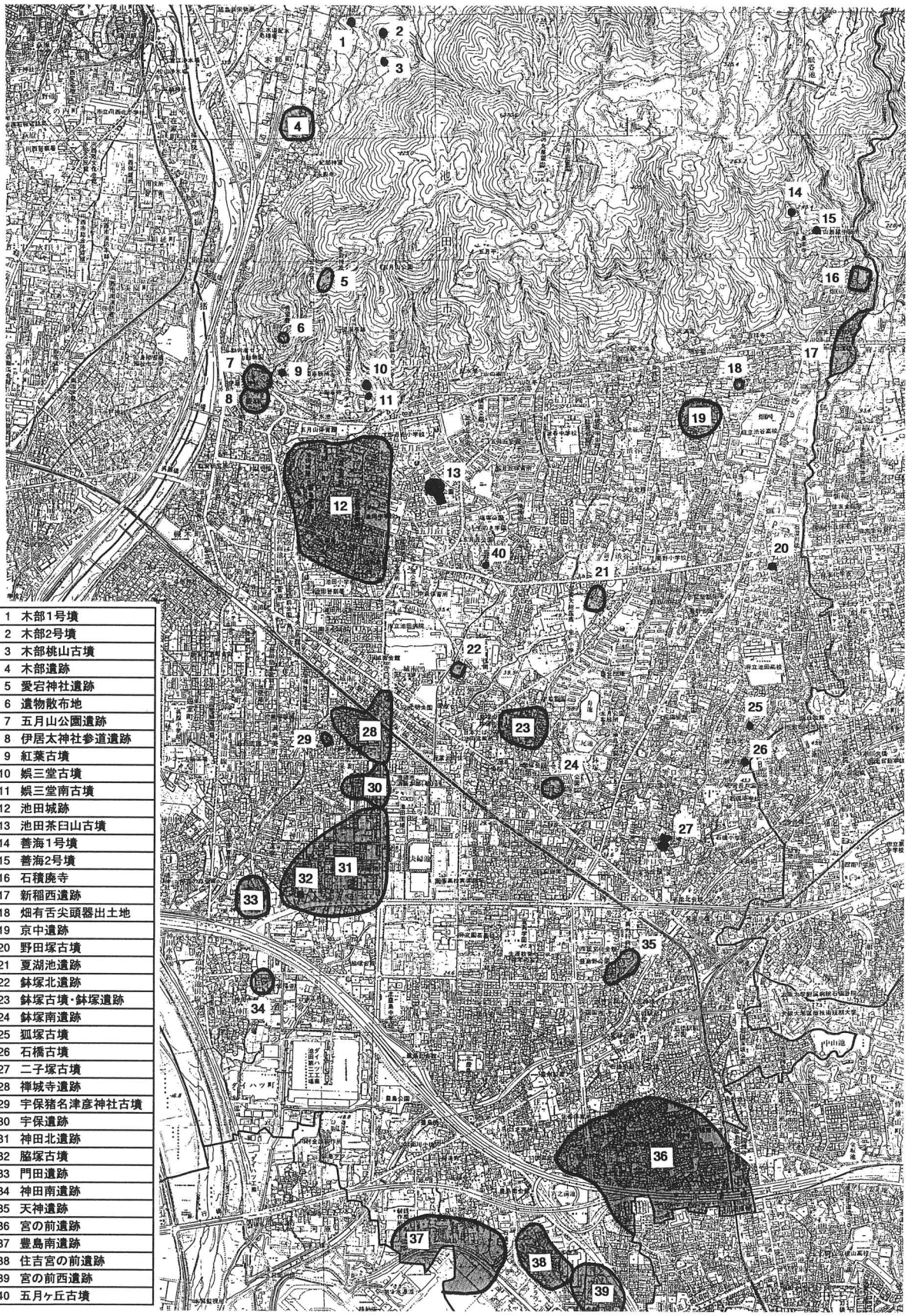
縄文時代

市域北部の遺跡で縄文時代の遺物が確認されている遺跡は、古江遺跡から石匙１点採取されているのみである。

伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鏃、京中遺跡でサヌカイト製の石鏃・石匕が採取され、近隣の畑ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏃や晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏃・石匙、宮の前遺跡では石棒が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、土器は少量で、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。

第2図　宮の前遺跡石棒



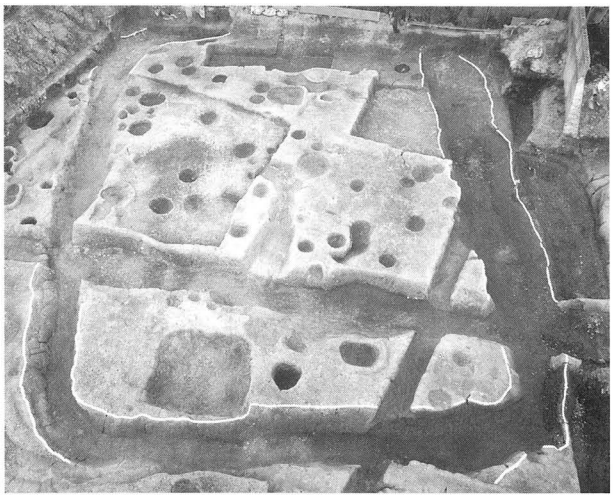
1	木部1号墳
2	木部2号墳
3	木部桃山古墳
4	木部遺跡
5	愛宕神社遺跡
6	遺物散布地
7	五月山公園遺跡
8	伊居太神社参道遺跡
9	紅葉古墳
10	娯三堂古墳
11	娯三堂南古墳
12	池田城跡
13	池田茶臼山古墳
14	善海1号墳
15	善海2号墳
16	石積廃寺
17	新稲西遺跡
18	畑有舌尖頭器出土地
19	京中遺跡
20	野田塚古墳
21	夏湖池遺跡
22	鉢塚北遺跡
23	鉢塚古墳・鉢塚遺跡
24	鉢塚南遺跡
25	狐塚古墳
26	石橋古墳
27	二子塚古墳
28	禅城寺遺跡
29	宇保猪名津彦神社古墳
30	宇保遺跡
31	神田北遺跡
32	脇塚古墳
33	門田遺跡
34	神田南遺跡
35	天神遺跡
36	宮の前遺跡
37	豊島南遺跡
38	住吉宮の前遺跡
39	宮の前西遺跡
40	五月ヶ丘古墳

第3図 遺跡分布図

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麗に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。

弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約１㎞に位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。



第４図　豊島南遺跡方形周溝墓

第５図　池田城跡竪穴住居跡

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成３年の調査において、ベット状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴住居跡、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。

古墳時代

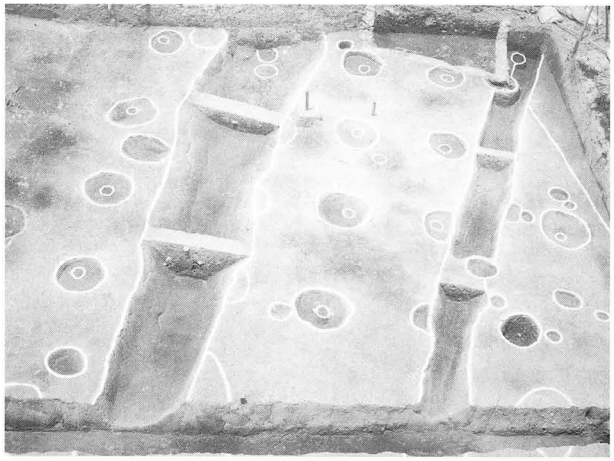
池田市内に残る古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娯三堂古墳である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62ｍの前方後円墳で、竪穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娯三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500ｍ離れた五月山中腹に位置する径27ｍの円墳で、明治時代に石室内から画文帯神獣鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土槨が存在することが確認されている。

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

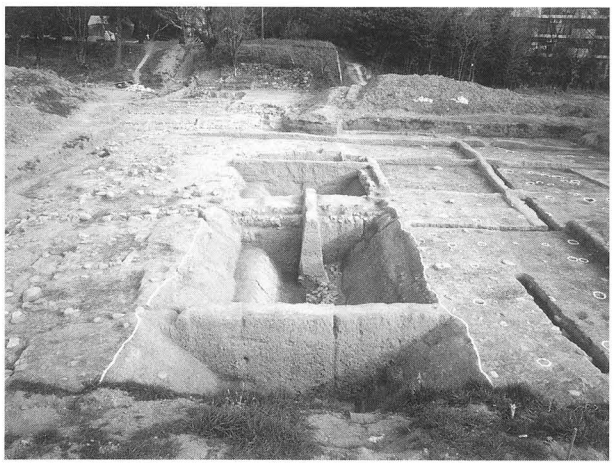
古墳時代後期では善海１・２号墳、木部１・２号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは２～３基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、こ

れらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると、少しではあるが検出遺構も増す。宮の前遺跡では竪穴住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴住居跡、溝が検出されている。



第６図　豊島南遺跡掘立柱建物跡



第７図　池田城跡主郭部

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、土師氏によって開発が推進されたとされる呉庭荘と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麗に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成４年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、塼列建物跡等を確認している。

参考文献

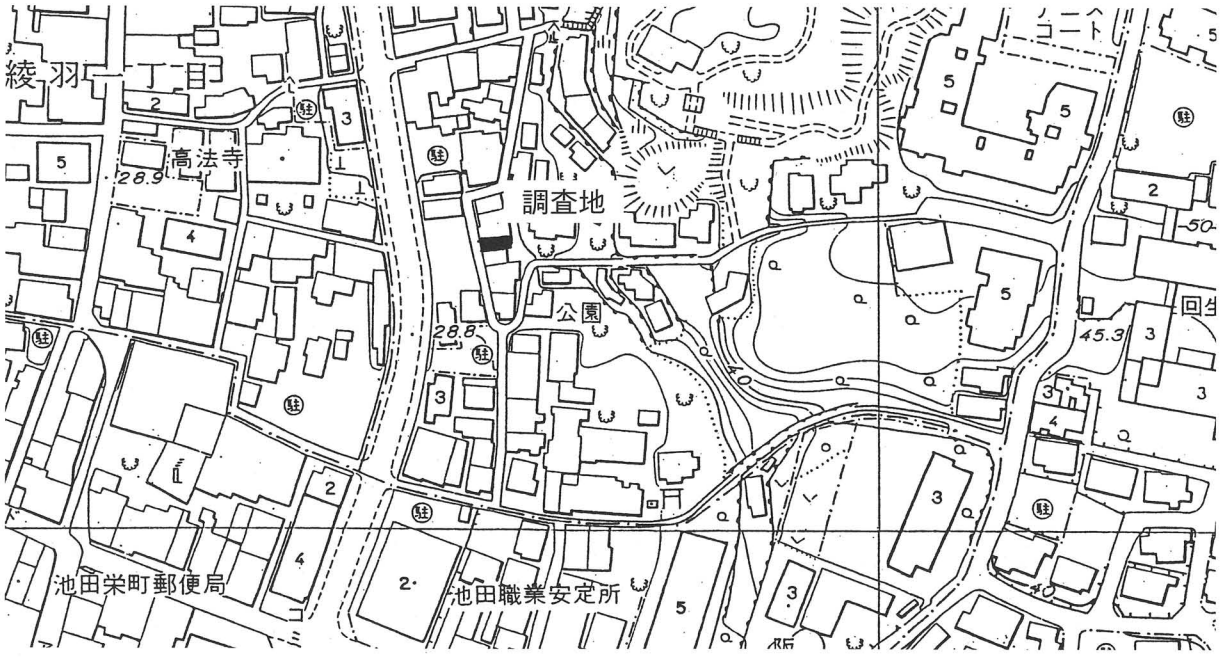
『原始・古代の池田』　池田市立池田中学校地歴部 1985年
『新修　池田市史』　第１巻　池田市 1997年
『禅城寺・宇保・神田北遺跡』 大阪府教育委員会 2002年

Ⅱ　池田城跡第50次調査

はじめに

池田城は、池田市の城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選地されていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀後半頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城跡の主郭部は、現在でも土塁と空堀が良好に残り、当時の面影を少しは窺わせるが、城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に主郭部の一部が発掘調査がなされ、建物に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～４年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる塼列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約 100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明している。また、池田城



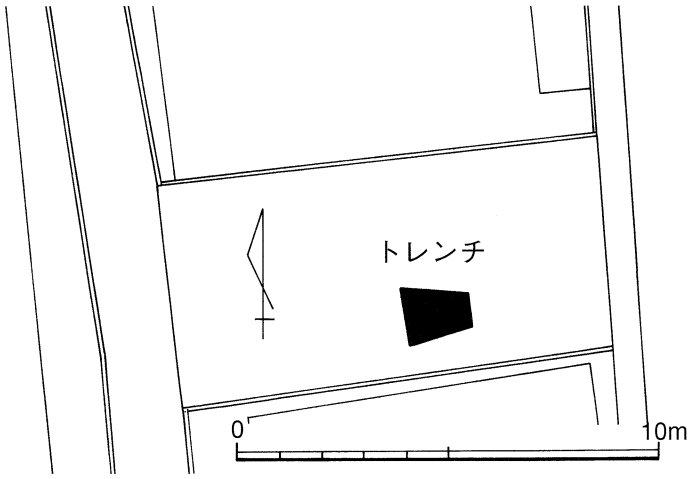
第８図 調査地位置図

築城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大阪府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、また、平成３年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベット状遺構を伴う竪穴住居跡が検出されている。

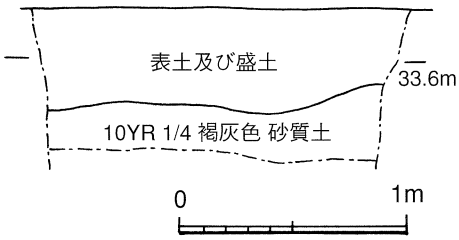
調査の概要

発掘調査は池田市城山町3217－１において、個人住宅建築に先立ち実施した試掘調査である。調査地は池田城跡の東端、池田城が立地する台地下の平地に位置している。調査面積は２㎡である。

基本層序　第１層は表土、及び、盛土、第２層は褐色の粘質土で、基礎の掘削深度の関係から地山面まで掘り下げることができず、遺構・遺物を確認することはできなかった。



第９図　トレンチ位置図



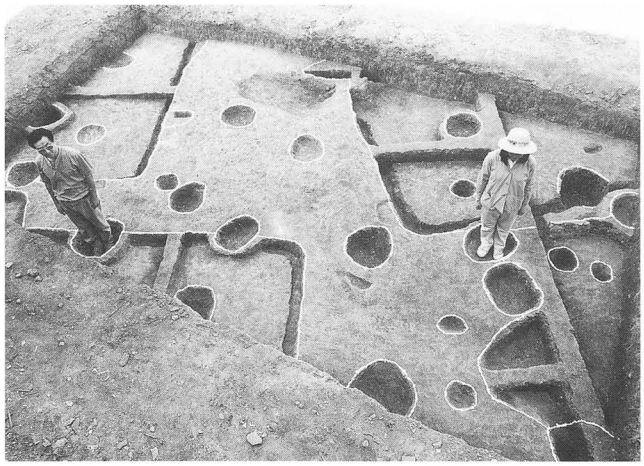
第10図　トレンチ北壁断面図

Ⅲ　禅城寺遺跡発掘調査

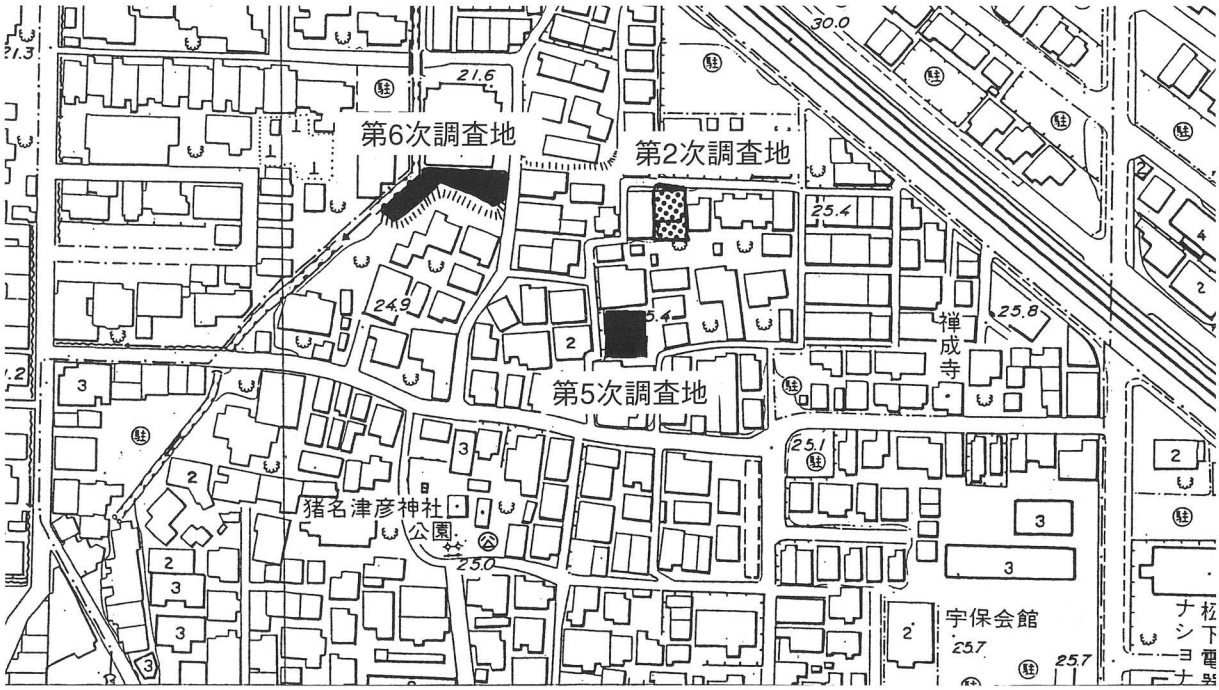
はじめに

禅城寺遺跡が位置する宇保町一帯は、11世紀頃、土師氏によって開発されたと考えられる呉庭荘に比定される。その後、呉庭荘は平安時代後期の鳥羽院政期には皇室領となり、鎌倉時代に入ると皇室領からは離れ、農業信仰の牛頭天王を祭神とする呉庭総社を創設し、社領荘園として直接支配が図られた。善城寺も呉庭総社とともに氏寺として創建された。禅城寺は坂上氏系譜にみられる善城寺と考えられるが、詳しいことはわかっていない。

禅城寺遺跡の発見は、昭和62年マンション工事中に中世の瓦が発見されたことからはじまるが、その後、調査の件数が少なく不明な点が多かった。しかし、平成９年、遺跡の東側に位置する府道拡幅工事に伴う大阪府教育委員会の試掘調査の結果、中世遺物が発見されたことにより、遺跡範囲の拡大が行われた。また、平成10年に実施した池田市教育委員会による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査の結果、飛鳥時代の竪穴住居跡４基、奈良時代の掘立柱建物跡１基が確認され、出土遺物についても弥生時代後期の土器が確認される。こうした成果から、禅城寺遺跡は宇保町・城南２丁目一帯にひろがる弥生時代後期から中世にかけての複合遺跡であることが明らかになった。



第11図　禅城寺遺跡第２次調査



第12図 調査地位置図

禅城寺遺跡第５次調査

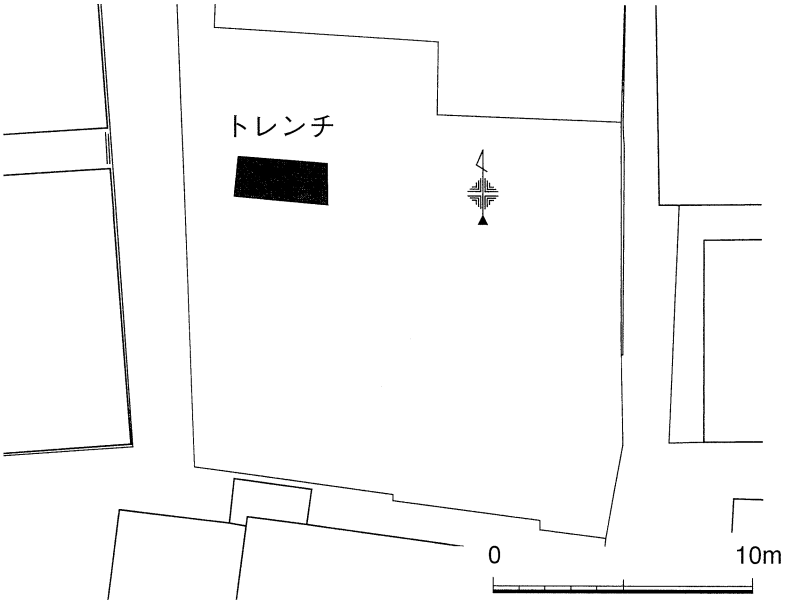
調査の概要

発掘調査は池田市宇保町331－１において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査面積は６㎡である。

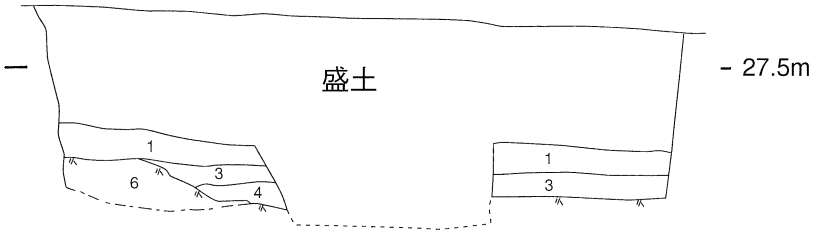
基本層序は、第１層は盛土、第２層は暗赤灰砂質土、第３層は暗赤灰砂質土、第４層は明黄褐粘質土の地山である。

検出遺構

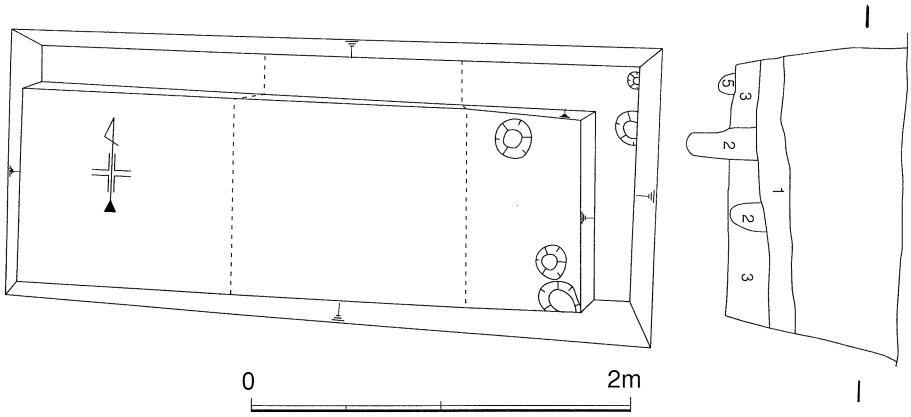
今回の発掘調査第３層・第４層上面よりで検出した遺構は柱穴のみで、柱穴の深さは10cm前後で、出土遺物はなく時期の特定もできなかった。調査トレンチの中央には撹乱があるため、掘立柱建物跡の復元には至らなかった。



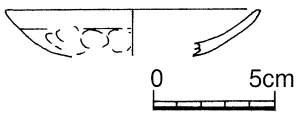
第13図　トレンチ位置図



1　7.5R4/1暗赤灰色砂質土　　2　10Y6/1灰色粘質土　　3　7.5R4/1暗赤灰色砂質土炭化物含む
4　5B6/1青灰色粘土　　5　5YR4/1褐灰色粘質土　　6　10YR6/6明黄褐色粘質土



第14図　トレンチ平・断面図



第15図　出土遺物実測図

出土遺物

第３層より、須恵器・土師器皿・瓦器椀等が出土したが、図化できたものは第15図の13世紀と考えられる土師器皿のみであった。内面と外面口縁部あたりはヨコナデで、外面下部は指頭圧痕が認められる。

禅城寺遺跡第６次試掘調査

調査の概要

調査は池田市宇保町270他において、建売住宅建築工事に先立ち実施した。調査面積は４㎡である。

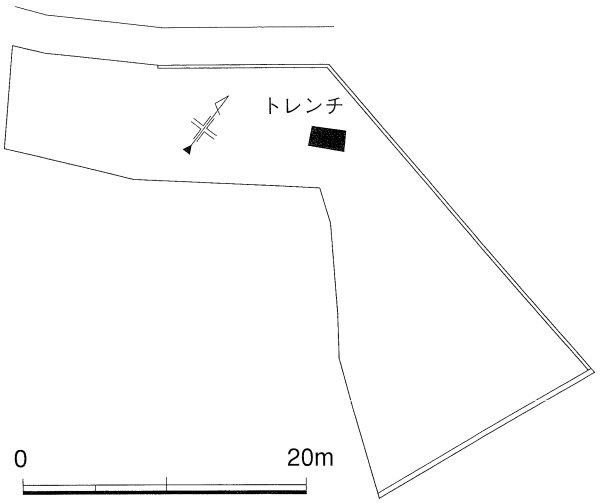
調査地は南東に位置する台地よりおよそ２ｍ下がった場所である。基本層序は、第１層は礫含む明赤褐色粘質土、第２層は明赤褐色粘質土、第３層は極明赤褐色粘質土、第４層は明黄褐色粘土の地山である。

今回の調査の結果、地山は北西に向かい傾斜しており、南東に位置する台地より続くのもと考えられる。

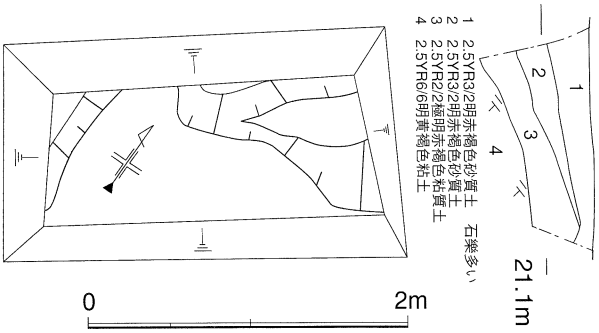
出土遺物

調査により、奈良時代を中心とする遺物が出土した。

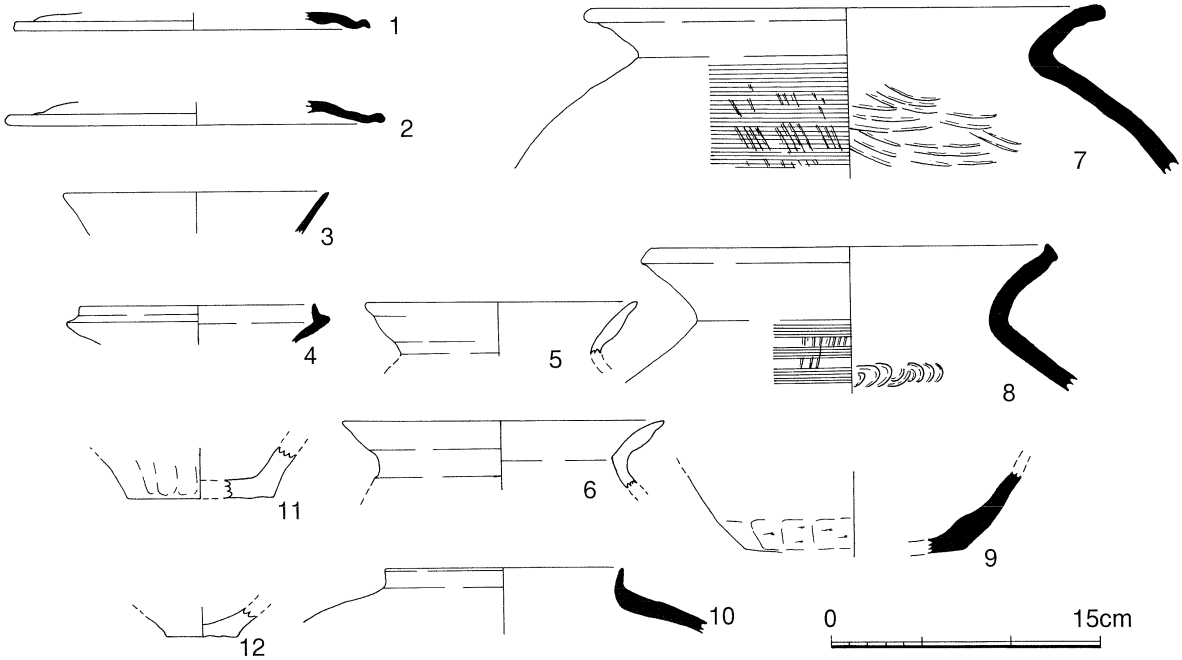
１・２は須恵器蓋で、ともに口縁部は明確な内への折りがない。



第16図　トレンチ位置図



第17図　トレンチ平・断面図



第18図　出土遺物実測図

１の口縁端部は角があるが、２は丸みを帯びている。３は須恵器椀の口縁でわずかに外彎する。４は須恵器を模倣した土師質の杯身で、色調は褐色である。５・６は土師器甕の口縁で、ともに口縁は外彎し、中央は肥厚する。７・８は須恵器甕の口縁部で、７は体部外面タタキの後、回転カキ目を施す。一部自然釉かかりが、表面の風化が著しい。体部内面は同心円タタキの後、なで消しを行う。口縁端部は丸みをおびる。８は体部外面タタキの後、回転カキ目を施す。体部内面は同心円タタキを行う。口縁端部は面をもつ。９は須恵器壷底部である。外面底部付近は手持ちヘラ削りである。10は須恵器短頸壷で、口頸部は小さい。11・12は弥生土器壷の底部である。また、これらの他に移動式竈片〔図版5　1）13〕・瓦が出土している。

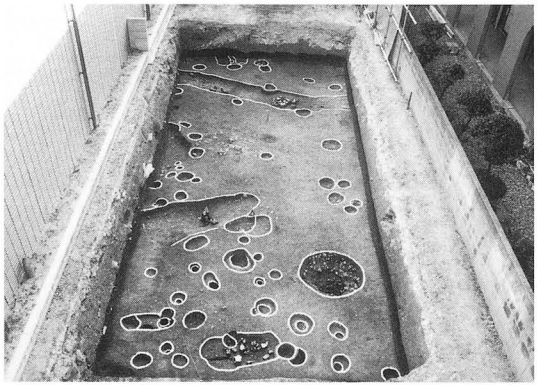
奈良時代を中心とする遺物が出土したことから、調査地南東周辺の台地上に奈良時代の集落が広がっていたと考えられ、本調査地は、土器などの廃棄場所と推定できる。

Ⅳ　宮の前遺跡発掘調査

はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋４丁目、住吉1・2丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地する。この台地は、猪名川によって形成された沖積平野とは約10mの比高差を有する。周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、古墳時代前期の竪穴住居跡が検出された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、須恵器を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、古墳時代前期の掘立柱建物跡が検出された螢池東遺跡、国府型ナイフ形石器が出土した螢池西遺跡がある。

当遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取されたことにより、遺跡の存在が知られるようになったが、本格的な調査は行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴住居跡、古墳等が検出された。特に、当時、検出例が少なかった方形周溝墓が住居とともに多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目されるようになった。他にも、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等が確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。



第19図　宮の前遺跡第26次調査

その後、大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会によるマンション等の開発に伴う事前調査で、遺跡の範囲は東西700m、南北900mと拡大している。昭和61年度の大阪府教育委員会によ

第20図　調査地位置図

る調査、平成元年度の豊中市教育委員会よる調査で、国府型ナイフ形石器が出土し、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明している。

参考文献

『宮之前遺跡発掘調査概報』　宮之前遺跡調査会　1970年
『蛍池北遺跡（宮の前遺跡）』　豊中市教育委員会　1995年
『新修　池田市史』第1巻　池田市　1997年

宮の前遺跡35次調査

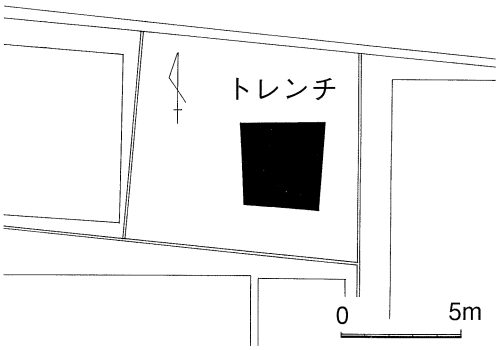
調査の概要

調査地は池田市石橋４丁目64－９に位置する。調査は個人住宅に伴い実施した。調査面積は12㎡である。

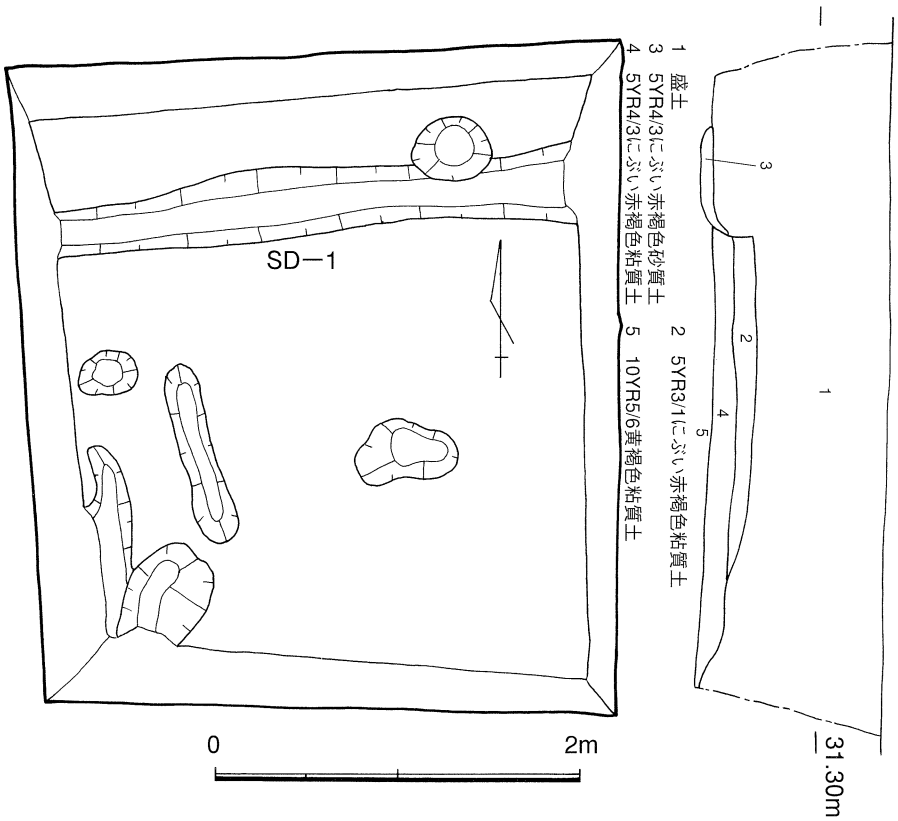
調査の概要

層序は４層からなる。第１層は盛土、第２層は黒褐色粘質土、第３層はにぶい赤褐色粘質土の遺物包含層、第４層は黄褐色粘質土の地山である。第３層の遺物包含層からは瓦器を中心とする中世の遺物が出土した。

検出遺構は第３層上からの溝（ＳＤ－１）、第４層（地山）上からの柱穴・溝等である。

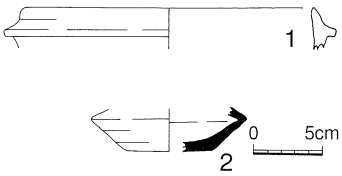


第21図　トレンチ位置図



第22図　トレンチ平・断面図

ＳＤ－１は幅60cm、深さ20cmを測り、ほぼ東西方向に走る。時期は中世以降と考えられる。柱穴はそれぞれ深さが10cm前後と浅く、また、遺構内からは遺物は検出できなかった。



第23図　出土遺物実測図

出土遺物

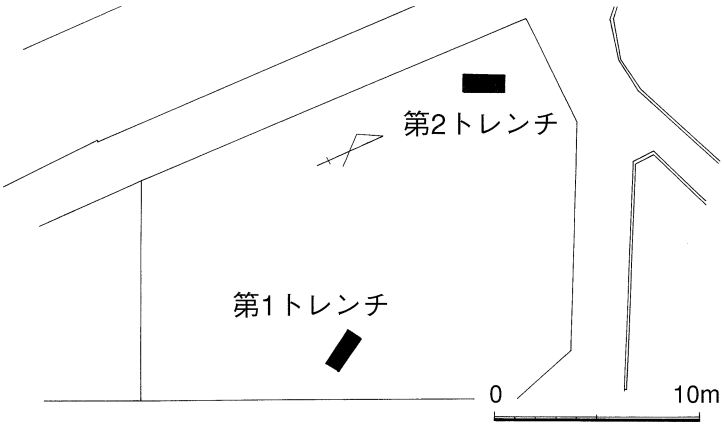
本調査区から出土した遺物は、すべて第３層の遺物包含層からである。

１は瓦質羽釜の上部で、口縁は少し内向し、また、羽部はやや下を向く。２は底部から肩部にかけてしか残存しないが、須恵器の小型平瓶と考えられる。高台はなく、把手が付くかは不明である。

宮の前遺跡第40次調査

調査の概要

調査は池田市住吉２丁目67－１において、個人住宅建築に伴い実施した。調査地内東西２箇所に試掘トレンチを設定し調査を実施した。調査面積は４㎡である。

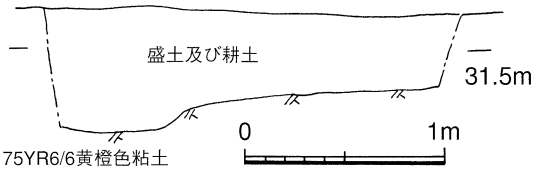


第24図　トレンチ位置図

調査の概要

両トレンチともに２層からなり、遺物包含層はなく、第１層は盛土及び、耕土、第２層は黄橙色粘質土の地山である。

調査の結果、遺構・遺物の検出はできなかった。

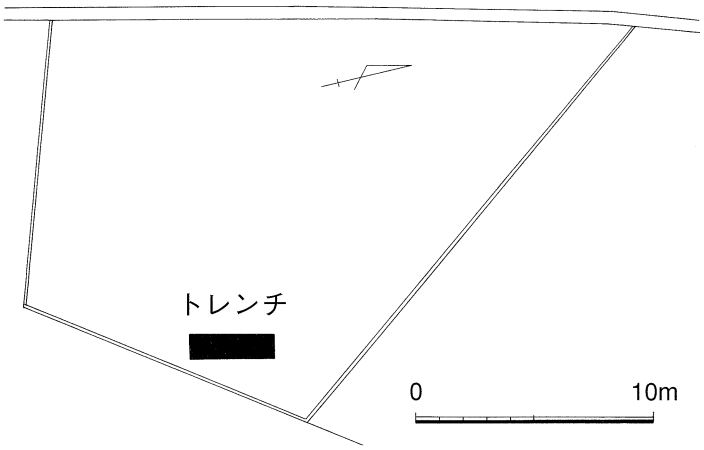


第25図　第１トレンチ西壁断面図

宮の前遺跡第41次調査

調査の概要

調査は池田市石橋４丁目89－７において、個人住宅建築に伴い実施した。調査地南側に試掘トレンチを設定し調査を実施した。調査面積は４㎡である。



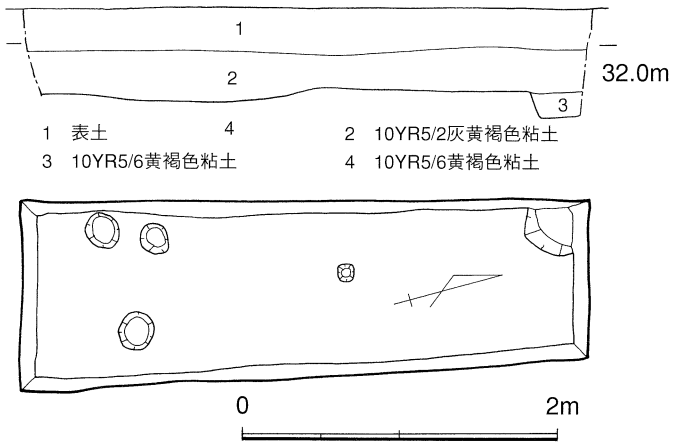
第26図　トレンチ位置図

調査の概要

層序は２層からなる。第１層は盛土及び耕土、第２層は

黄褐色粘質土の地山である。

調査の結果、第２層地山上より柱穴５基を検出するのみである。出土遺物は第１層から土師器片が出土するが、図化できるものはなかった。



第27図　トレンチ平・断面図

V　神田北遺跡第13次試掘調査

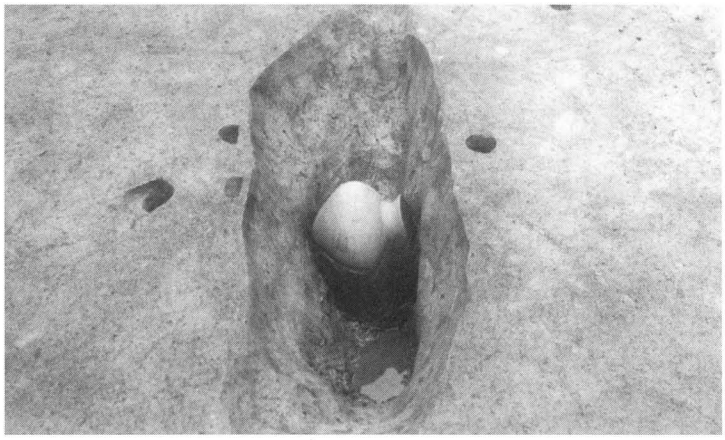
はじめに

神田北遺跡は池田市神田1・2丁目、八王子1丁目一帯にひろがる縄文時代から中世にいたる複合遺跡である。

当遺跡は昭和50年に石鏃の発見により周知されたものである。同年、発掘調査が行われ、縄文時代の石鏃、弥生時代後期の土坑や須恵器等が見つかっている。

その後のマンション・住宅建築等に伴う事前の発掘調査により、弥生時代後期の竪穴住居跡、奈良時代の掘立柱建物、溝、中世の掘立柱建物などが見つかり、徐々にではあるが遺跡の概要が判明している。また、平成11年の大阪府教育委員会による調査では、国府型ナイフ型石器が見つかっており、旧石器時代まで溯ることが判明している。

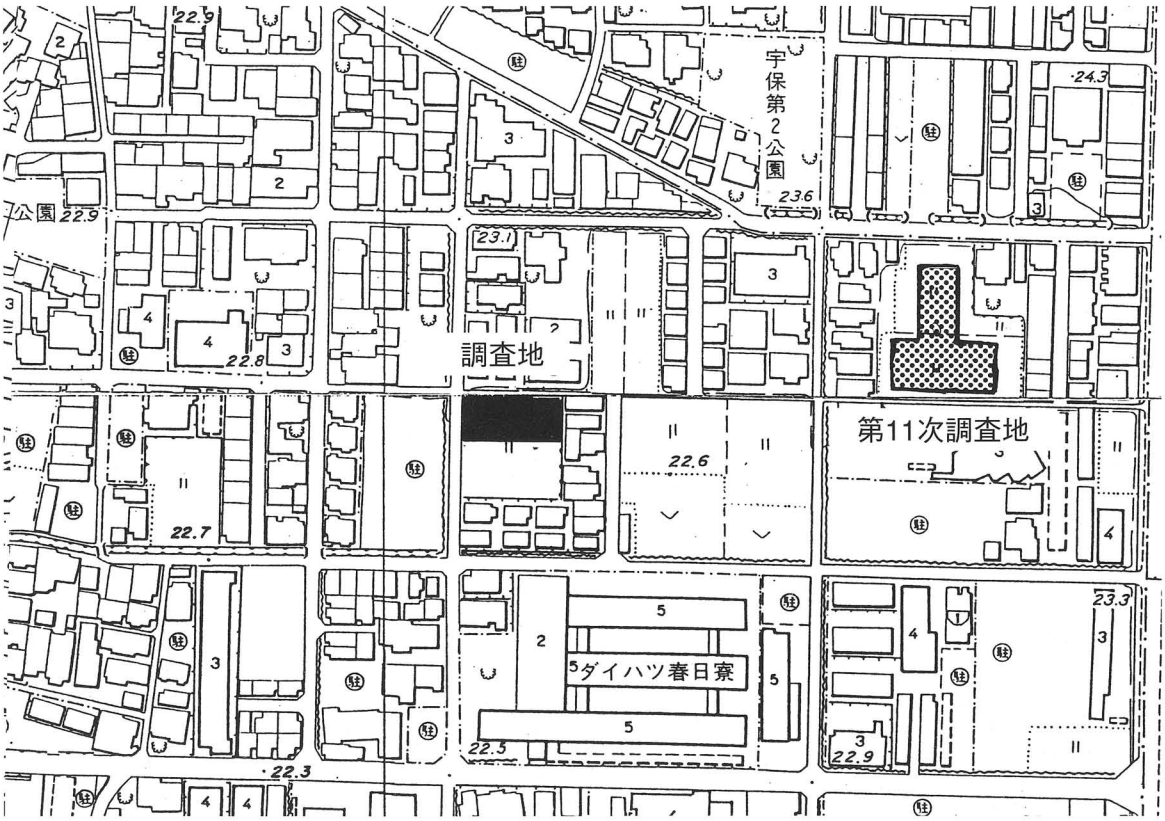
また、周辺の調査として、神田北遺跡より北に位置する禅城寺遺跡では、飛鳥時代の竪穴住居跡が見つかっている。



第28図　神田北遺跡第11次調査

参考文献

『禅城寺・宇保・神田北遺跡』
大阪府教育委員会　2002



第29図　調査地位置図

調査の概要

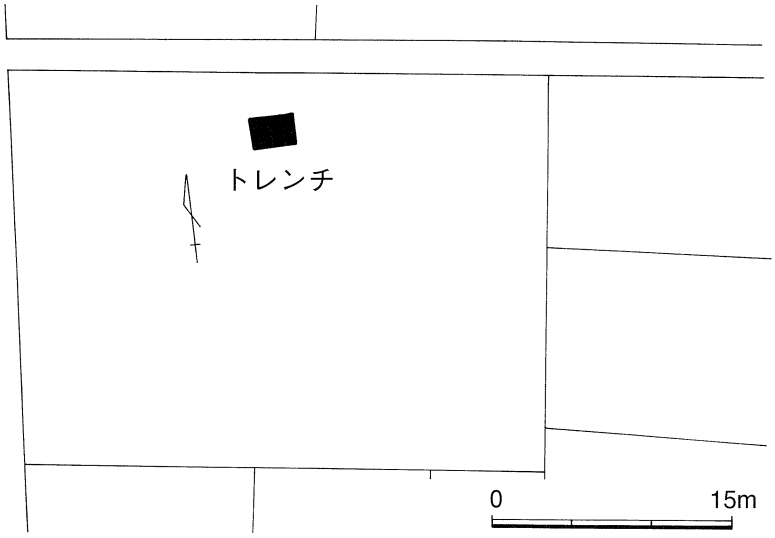
調査は神田1－1358－1，－2において、民間福祉施設建築に先立ち実施した試掘調査である。調査地の北側にトレンチを設定し調査を実施した。調査面積は6㎡である。

層序は第1層が耕土及び床土、第2層は暗褐色粘質土、第3層は黄褐色粘質土の地山である。地山は北西に向かって傾斜している。

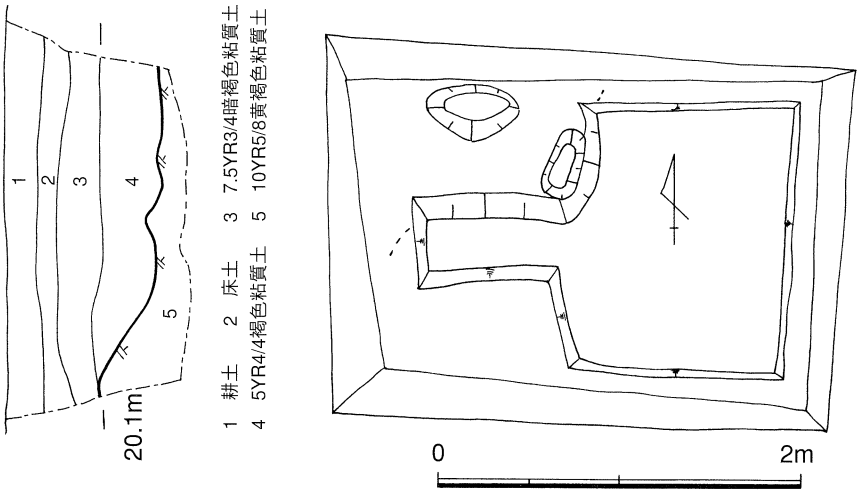
遺構は第3層の地山上から柱穴を検出したが、掘立柱建物の復元はできなかった。

出土遺物

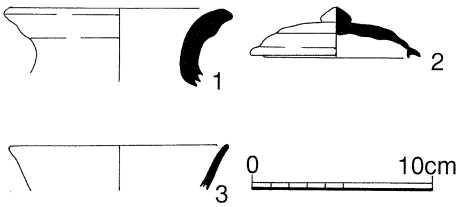
1から3は包含層内より出土したもので、1は須恵器壷の口縁部、2は須恵器蓋で宝珠のつまみ、かえりがある。3は須恵器椀で外反する口縁を有する。



第30図　トレンチ位置図



第31図　トレンチ平・断面図



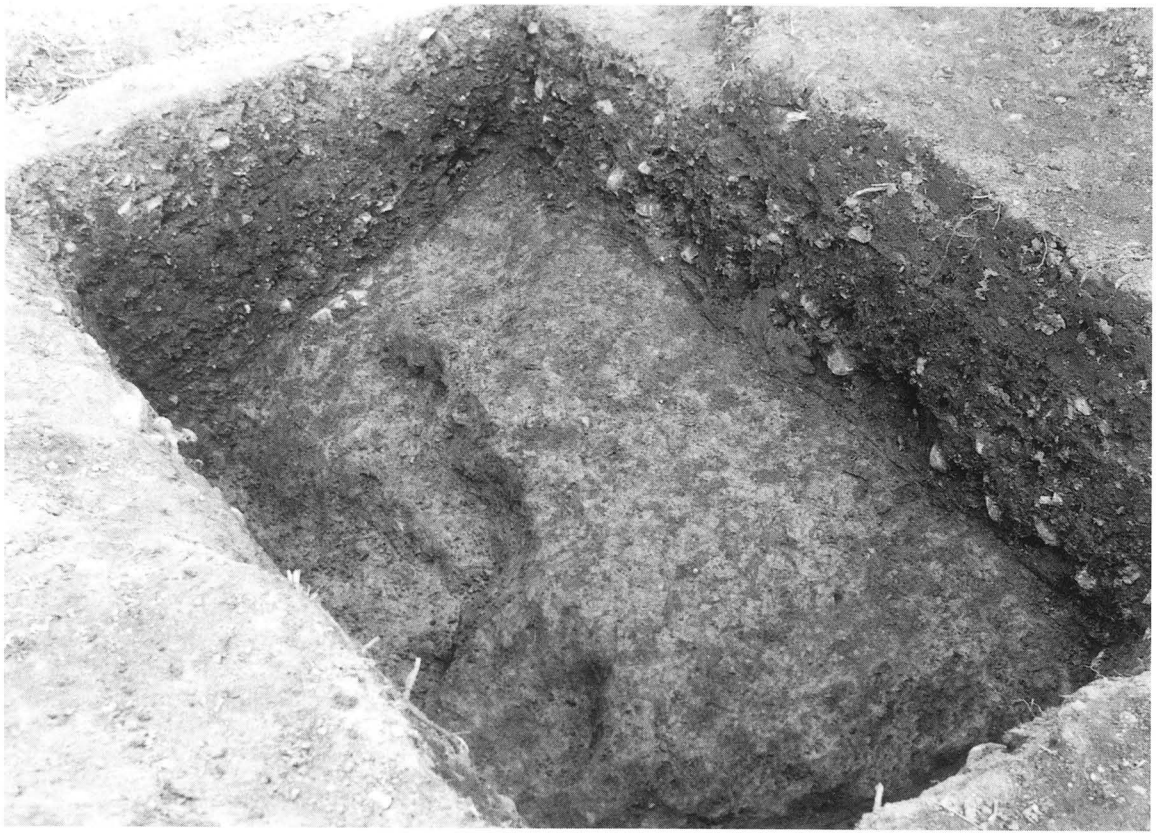
第32図　出土遺物実測図

図版1

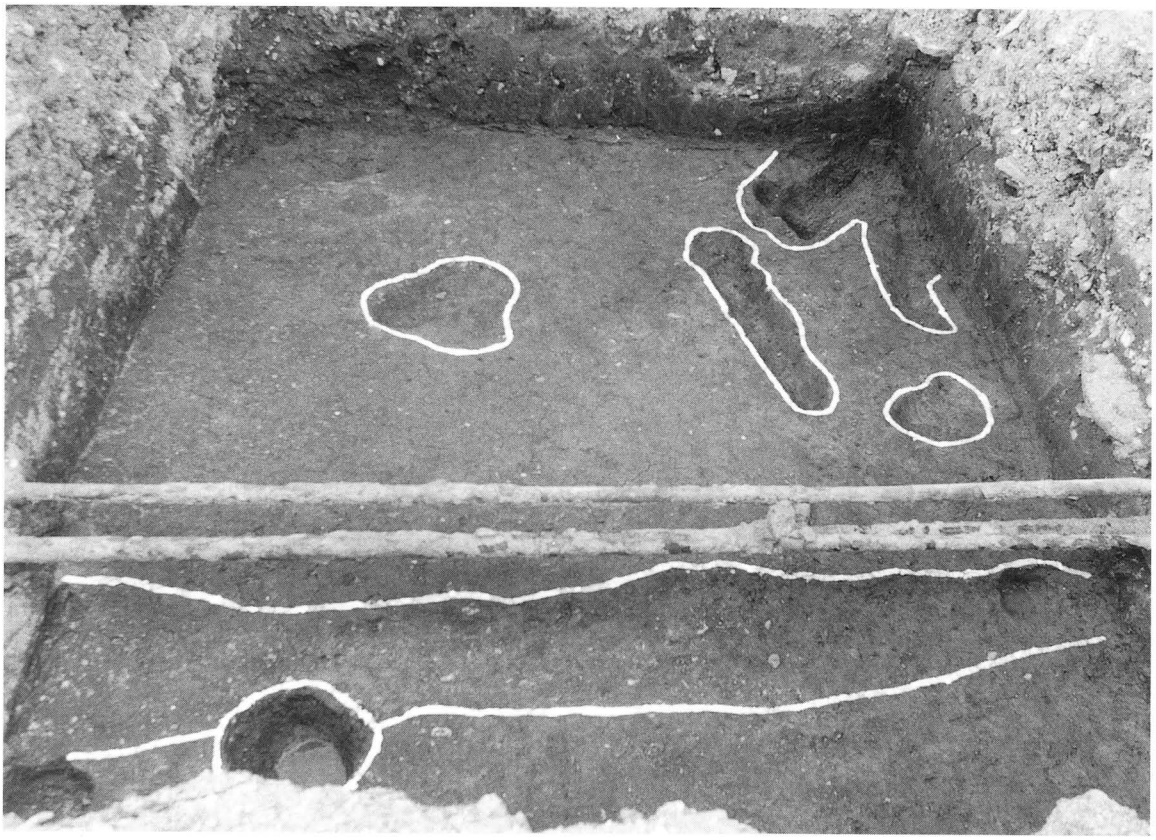
1）池田城跡第５０次調査　トレンチ全景（南から）

2）禅城寺遺跡第５次調査　トレンチ全景（西から）

図版2



1）禅城寺遺跡第６次調査　トレンチ全景（西から）



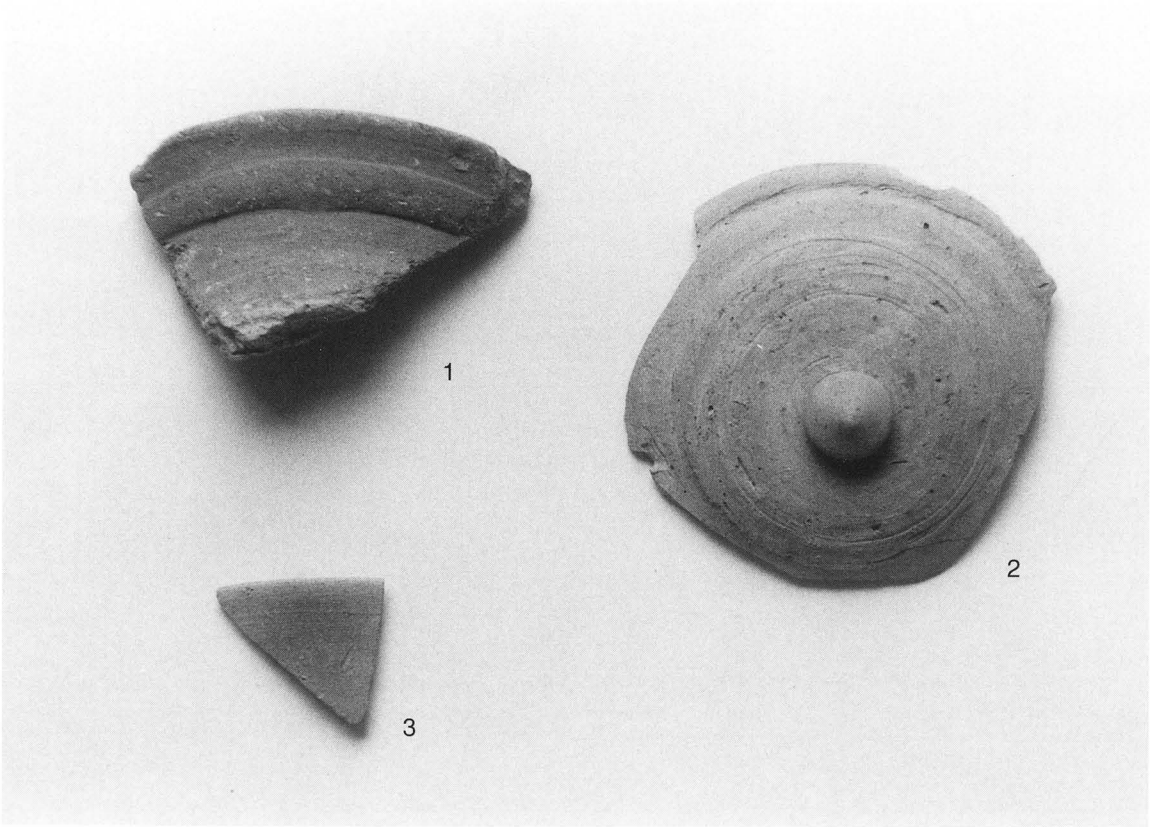
2）宮の前遺跡第３５次調査　トレンチ全景（北から）

1）宮の前遺跡第４０次調査　第１トレンチ全景（南から）

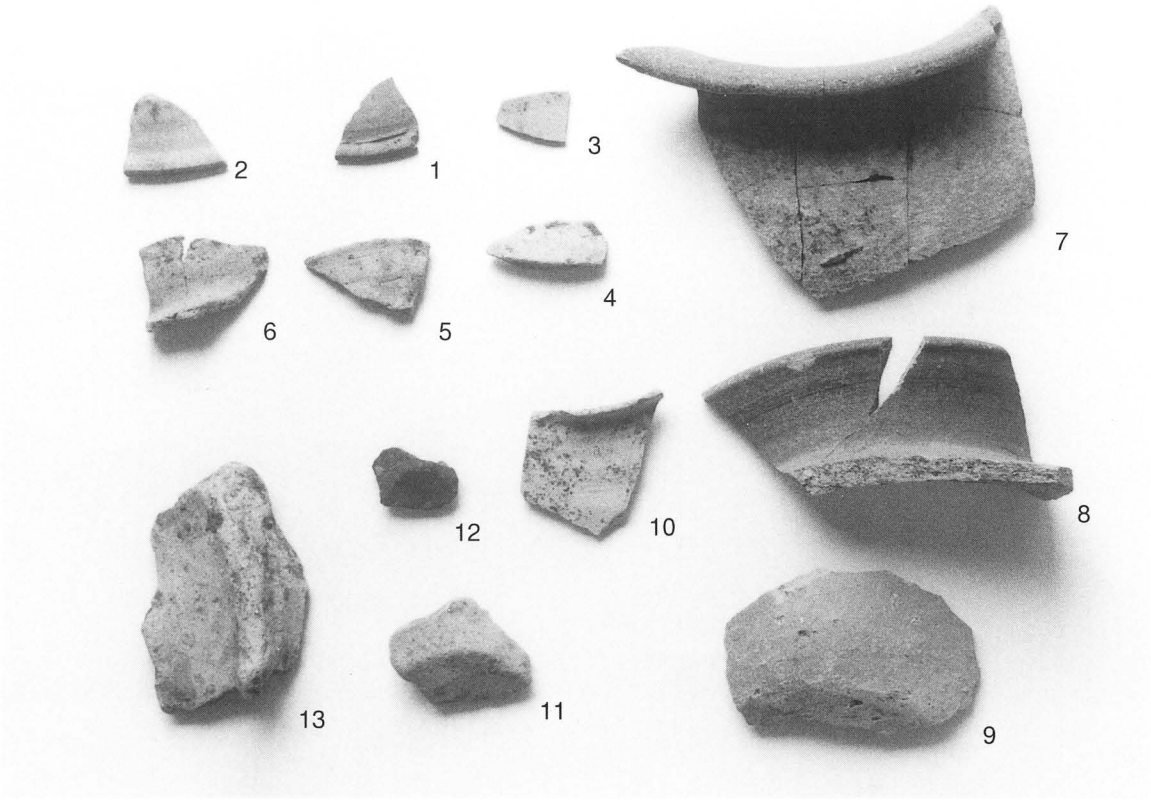
2）宮の前遺跡第４１次調査　トレンチ全景（南から）

図版4

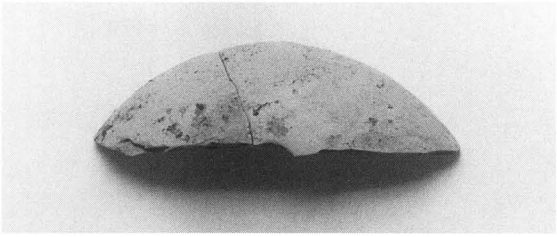
1）神田北遺跡第１３次調査　トレンチ全景（南東から）



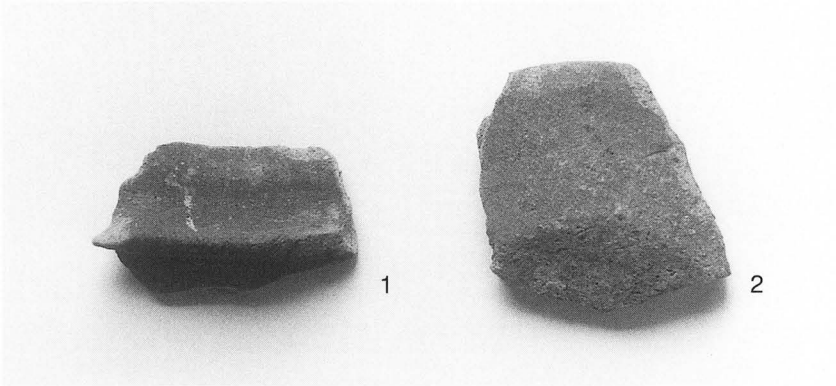
2）神田北遺跡第１３次調査　出土遺物



1）禅城寺遺跡第6次調査　出土遺物



2）禅城寺遺跡第5次調査　出土遺物



3）宮の前遺跡第35次調査　出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	池田市文化財調査報告第31集
巻次	
シリーズ名	池田市文化財調査報告
シリーズ番号	31
編著者名	中西正和
編集機関	池田市教育委員会
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南１丁目１番１号　TEL072-752-1111
発行年月日	2005年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いけだじょうせき 池田城跡第50次	しろやまちょう 城山町3217-1	272043	—	34度 49分 35秒	135度 25分 38秒	040223 ～ 040224	2 m²	個人住宅建設のための事前調査
ぜんじょうじいせき 禅城寺遺跡第5次	うほちょう 宇保町331-1他	〃	—	34度 48分 59秒	135度 25分 51秒	040226 ～ 040302	6 m²	個人住宅建設のための事前調査
ぜんじょうじいせき 禅城寺遺跡第6次	うほちょう 宇保町270他	〃	—	34度 49分 4秒	135度 25分 46秒	050124 ～ 050128	4 m²	建売住宅建設のための試掘調査
みやのまえいせき 宮の前遺跡第35次	いしばし 石橋4-64-9	〃	—	34度 47分 60秒	135度 26分 41秒	040603 ～ 040617	12m²	個人住宅建築に伴う事前調査
みやのまえいせき 宮の前遺跡第40次	すみよし 住吉2-67-1	〃	—	34度 48分 6秒	135度 26分 27秒	040705 ～ 040706	4 m²	個人住宅建築に伴う事前調査
みやのまえいせき 宮の前遺跡第41次	いしばし 石橋4-89-7	〃	—	34度 48分 12秒	135度 26分 35秒	040921 ～ 040924	4 m²	個人住宅建築に伴う事前調査
こうだきたいせき 神田北遺跡第13次	こうだ 神田1-1358-1他	〃	—	34度 48分 49秒	135度 25分 44秒	041012 ～ 041022	6 m²	福祉施設建築に伴う試掘調査

所在地	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
いけだじょうせき 池田城跡第50次	城館跡	中世	—	—	
ぜんじょうじいせき 禅城寺遺跡第5次	集落跡	中世	柱穴	瓦器等	
ぜんじょうじいせき 禅城寺遺跡第6次	集落跡	中世	—	須恵器等	
みやのまえいせき 宮の前遺跡第35次	集落跡	弥生～中世	柱穴・溝	瓦器等	
みやのまえいせき 宮の前遺跡第40次	集落跡	弥生～中世	—	—	
みやのまえいせき 宮の前遺跡第41次	集落跡	弥生～中世	柱穴	土師器等	
こうだきたいせき 神田北遺跡第13次	集落跡	弥生～中世	柱穴	須恵器等	

池田市文化財調査報告第31集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報
２００４年度
２００５年３月
発行　池田市教育委員会
　　池田市城南1丁目1番1号
編集　社会教育課　文化財担当
印刷　セイコープロセス株式会社